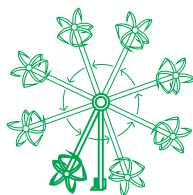
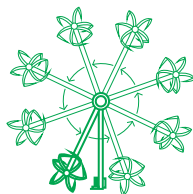
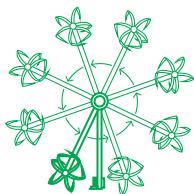
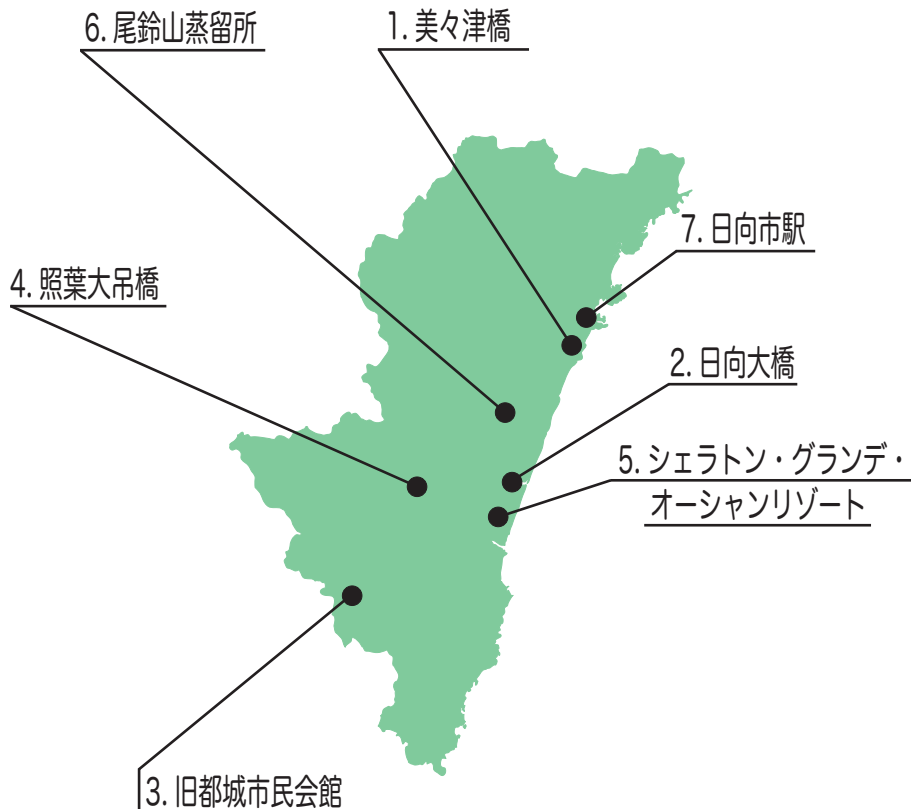


宮崎



担当者：田中睦巳（田中建築設計事務所），赤池美千恵（宮崎県鉄構工業会）
永井毅（永井製作所），尾宮洋一（鹿島），前田静華（鹿島）





1 スパンは現存橋で日本 3 位の長さ 昭和戦前期の鋼スパンドレル・ブレストアーチとして 国内最大スパンの橋 美々津橋

A ランク近代土木遺産
[2002] 土木学会選奨土木遺産

日向市幸脇～美々津

設計：増田 淳
施工：高田鉄骨橋梁製作所
橋長：168.7m
幅員：7.6m
径間：17.8m+2 × 64.4m+17.8m
形式：上路スパンドレルブレスト鋼アーチ
竣工年月：1934 年

美々津橋は昭和戦前期の鋼スパンドレル・ブレストアーチとして国内最大スパンの橋です。昭和 9 年当時の幹線道であった国道 3 号(現・国道 10 号)は耳川によって寸断されていたため、本橋の竣工は県民の悲願でもありました。

美々津橋は、戦時中には供出のため高欄は撤去され、また、終戦後にも塗装もされず、危険な状態でした。このような中、進駐軍の命令で全国的な砂利道修繕や鋼橋塗装事業が行われましたが、宮崎県の事業第 1 号が美々津橋です。県工事として、高欄もその後やり直しとなり、また、プレキャストによる鉄筋コンクリート版が用いられました。(尾宮洋一)



2 日本初のローゼ桁による鋼橋・当時最長のアーチ橋 日向大橋

児湯郡新富町上富田

設計：九州地方建設局
施工：横河橋梁
全長：563m, 幅：7.5m
構造：S
竣工年月：1954 年

国道 10 号の一寸瀬川に架かるローゼ桁と呼ばれる鋼橋で、この形式で架けられた日本最初の橋であり、伸びやかな姿が印象的である。川の流心部に架けられた 3 つのアーチ部がローゼ桁の形式を採用しており、構造としてはアーチ部の曲線材と橋桁の直線材とを結合し一体化したものである。(前田静華)



3

オーディオ上屋鉄骨造（屋根が特徴的）・都城のシンボル建築 旧都城市民会館

都城市八幡町 3

設計：菊竹清訓建設設計事務所

施工：鹿島建設

建築面積：2,386.4m²

階数：地上2階・一部中2階

構造：RC・S（屋根）

竣工年月：1966年

半円状の屋根に、それを支える放射状に突き出した鉄骨梁が特徴の建築。近くで見ると扇のような形のデザインである。特徴的な屋根は更新されることを前提に設計されたようだ。南側に伸びるように作られた低層の部分は完成当初は屋外ステージとして使われていた。梁が放射線状に突き出し、オウム貝を連想させる。（前田静華）



4

鋼製でつくられた吊り橋 溪谷からの高さ 142m 照葉大吊橋

施設HP

東諸県郡綾町大字南俣大口 5691-1

長さ：250m、高さ：142m

構造：鋼吊橋

竣工年月：1984年

架け替え工事 2011年



照葉樹林一帯が九州中央山地国定公園に指定された後の1984年（昭和59年）3月に架橋された。長さ250m、高さ142mの歩行者専用の鋼製の長経間2ヒンジ補剛吊り橋である。高さ142mは歩行者専用の吊り橋としては日本で2番目（2006年10月に大分県の九重"夢"大吊橋（高さ173m）に破られた）の高さを誇り、吊り橋の近辺にはそれぞれ「歩く吊橋 世界一」・「照葉樹林の自然 日本一」と彫られた石碑がある。

2010年10月より老朽化のため、総事業費約3億2000万円をかけて架け替え工事に着工。橋の規模は以前と同じだが足場の一部を網状にして、下を見通せるようにし、スリル感大幅アップとなっている。

歩行者専用の吊り橋としては高さが日本で2番目となる。（尾宮洋一）



5 九州一の超高層ホテル シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート

施設HP

宮崎市山崎町浜山

設計：芦原建築設計研究所

施工：清水建設・日産建設・熊谷組・三井建設・国土開発
佐藤工業・松尾建設・坂下組・志多組 JV建築面積：5,656m²，延床面積：11,561m²

階数：地上43階・地下2階，構造：S・SRC，竣工年月：1994年8月



高さ154mを誇るタワーは、九州でもっと高い超高層建築で、宮崎市内のどこからでも見えるランドマークとなっている。全室を日向灘を望むオーシャンビューとするため、直角二等辺三角形の建築平面となっている。構造的には偏心の懸念がある平面計画であるが、外周部の柱を密にすることによって、ねじれを防止している。また、風揺れ対策として頂部TMDが設置されている。低層部中央には12層分を吹き抜けるアトリウムがある。

【裏話】九州における最初の本格的な超高層の建物でした。工期が一年を超え最上節が建ち上棟式の時は感激しました。柱材の4面ボックスのラインも立ち上げたばかりで苦勞もありましたが良い仕事ことができました。(永井毅)

6 山の中の密造所風建築 尾鈴山蒸留所

児湯郡木城町石河内 656-17

設計：武田光史建築デザイン事務所＋創建・設計事務所

施工：増田工務店

建築面積：971m²

延床面積：942m²

階数：地上2階

構造：[ケミカル棟]S

[その他]W

竣工年月：1998年3月

鉄骨造のケミカル棟は緩やかに湾曲した平面を持つ軒の高い建物である。屋根仕上げは木、外壁はスギを用いている。柱頂部の水平トラスとそれにつながる鉛直ブレースが流れる力のリズムを作っている。(尾宮洋一)



ゴジラの背ビレ...

どうしても見たい建物があった。都城市民会館だ。老朽化と維持管理費用がかかり、今様の使い方がなじまない建物なのか、解体の議論が上がっていたからだ。今は某大学が管理している(が、公開はしていない)。なぜ、こんなゴジラみたいな建物が出現したのか知りたかった。

行ってみると、周囲の街並み(住宅)と全くそぐわない場所に突然とそれは建っていた。私が小学校時代映画館で見た、ゴジラが街を破壊する映像が蘇る。

1966(昭和41)年、建築家菊竹清則が、何を思ってデザインしたのか想いを馳せる。建設当時の昭和40年代には、周りの建物はもっと少なく低くかったと想像される。平たい大地に今まさに起き上がろうとするゴジラの背ビレが、この街に出現することで何かを破壊し何かを起こそうとしたのではないかと思った。破壊と再生、建築界の「もののけ姫」か。

ばかげた建物＝「フォーリー」、この建物は建築家の力で建設された記念碑として生き続けても良いのではと思った。(尾宮洋一)





7 鉄と木の融合駅舎 日向市駅

- 【2007】優良木造施設林野庁長官賞
【2007】鉄道建築協会賞（国土交通省鉄道局長賞）
【2008】ブルネル賞（最優秀賞）
【2008】日本建築学会・建築九州賞（作品賞）
【2009】日本建設業連合会・第50回BCS賞

日向市上町 1-19

設計：篠原修・内藤廣・出口近士・吉武哲信・武田光史
都市づくりパブリックデザインセンター・アトリエ 74 建築都市計画研究所
内藤廣建築設計事務所・九州旅客鉄道・交建設計

施工：九鉄工業・吉原建設・協栄建設 JV
建築面積：2,891.54m²，延床面積：860.96m²
階数：地上1階，構造：S・W
竣工年月：2008年2月



現在の駅舎は、建築家の内藤廣や東京大学の篠原修など建築や都市の専門家・鉄道関係者・行政関係者・市民たちが協力し、10年以上にも及ぶ期間を経て完成した。地元耳川流域のスギ材をふんだんに使い、高架駅にもかかわらず木造を思わせる造りになっており、高架下の駅本屋内部も杉を前面に押し出したデザインで統一されている。島式ホーム1面2線の高架駅で、ホームは比較的広い。

2008年（平成20年）9月、鉄道に関係する国際的なデザインコンテストのブルネル賞で最優秀賞を受賞した。独特の建築様式を取り入れた駅舎が世界で高い評価を受けての受賞で、駅舎の最優秀賞受賞は日本初である。（尾宮洋一）